

台湾のWHAオブザーバー参加を支持する

- 一、第71回世界保健機関（WHO）の年次総会（WHA）は本年5月にスイス・ジュネーブで開催される予定である。健康は基本的な人権であり、人種、宗教、政治的信念または経済的若しくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つであることを、WHO憲章で謳っており、その崇高な理念に心より賛同するものである。
- 二、日本の古くからの友人である台湾は、2009年より8年連続でオブザーバーとしてWHAに参加し、世界の防疫ネットワークの一員として積極的に貢献してきたにもかかわらず、昨年はWHO事務局長から招待状が届かなかった。これは上記WHO憲章に掲げた理念に著しく離反するものである。
- 三、人の移動が益々頻繁になる今日において、日台間は昨年651万人の人的往来を記録している。本年度でSARS発生から15年が経つが、台湾がWHAに参加出来ない現状は、伝染病防止の地理的空白を生じることとなり、日本としても強い関心を持たざるを得ない。有効な防疫対策を図るためにも、保健衛生におけるグローバルな連携は極めて重要であり、台湾のWHAオブザーバーとしての参加は欠かせない。日本政府も台湾のWHAへの参加が望ましいという立場を重ねて表明している。
- 四、日華議員懇談会としては、新たな事務局長が就任した本年、台湾がWHAのオブザーバーとして招請されるよう強く支持する。

2018年3月22日

日華議員懇談会会長

古原圭司